

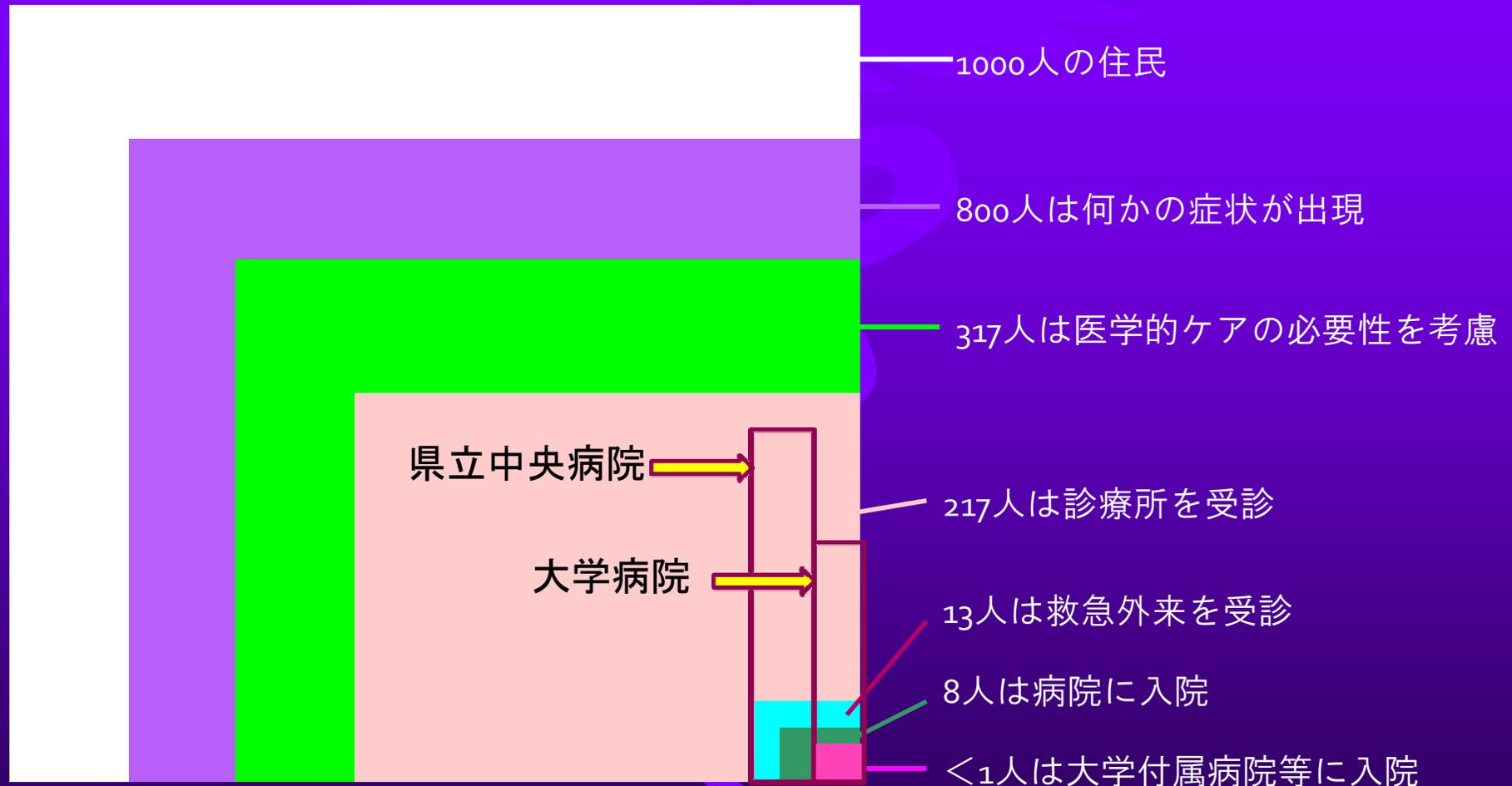
島根の地域医療

島根大学医学部 地域医療支援学講座

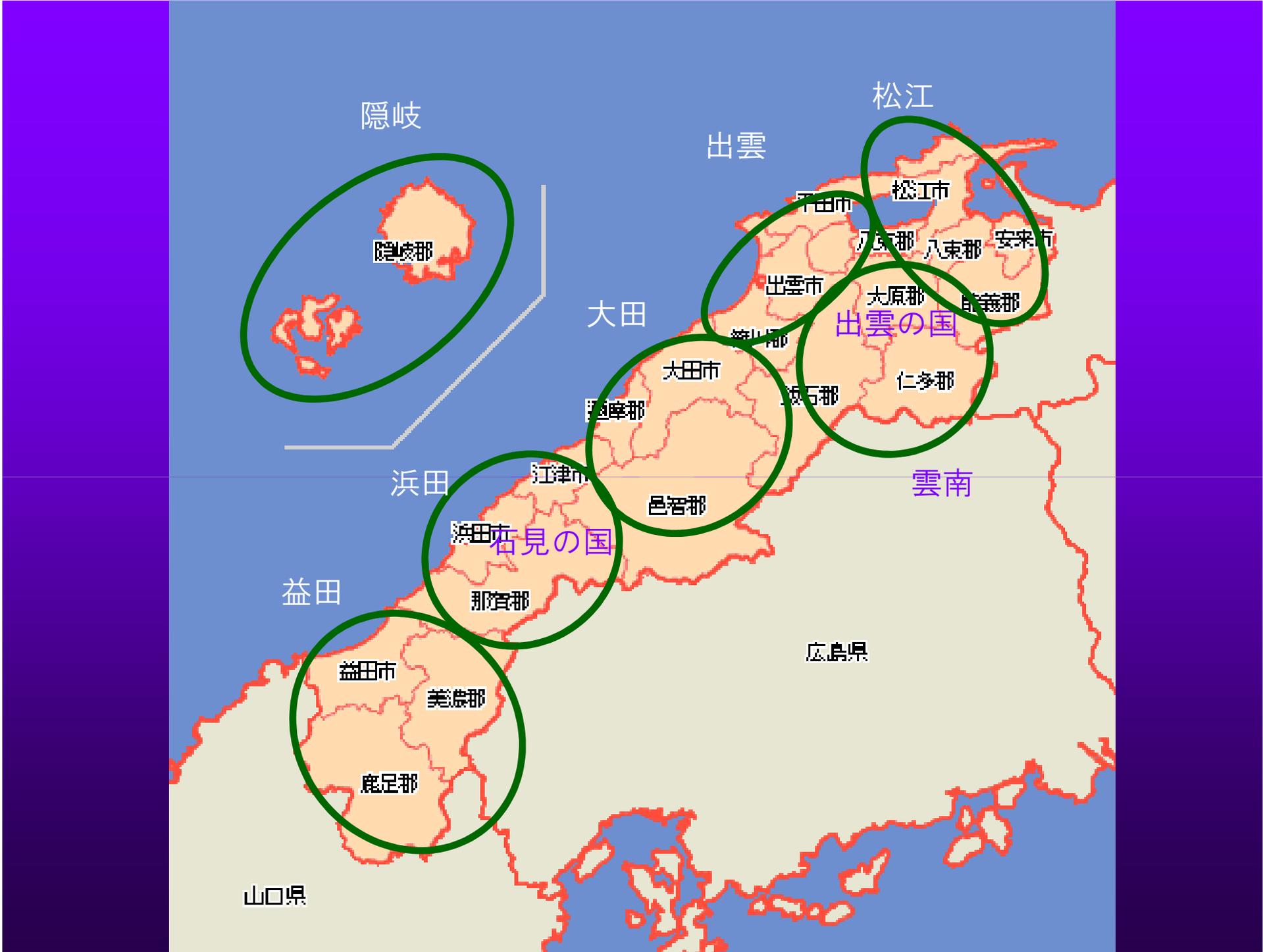
教授 谷口 栄作

地域住民の医療ニーズ

入院患者:10,468人/日
外来患者:16,358人/日



N England Journal of Medicine 2001;344:2021-25より



隠岐

松江

出雲

隠岐郡

平田市

松江市

万原郡

八束郡

安来市

出雲市

大原郡

鹿野郡

大田

出雲の国

大田市

仁多郡

瀬戸郡

坂石郡

浜田

江津市

雲南

邑智郡

浜田市

右見の国

益田

那賀郡

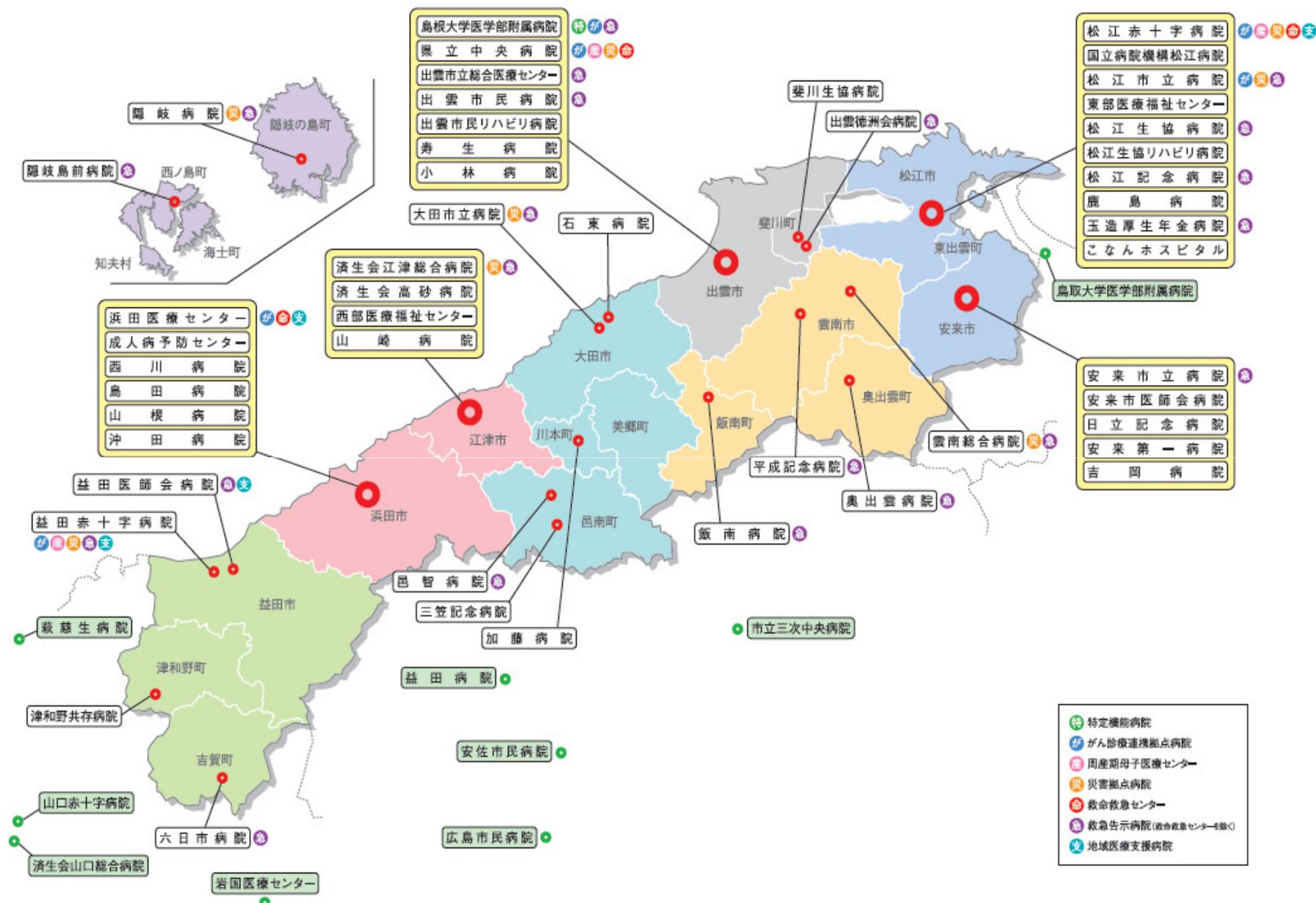
広島県

益田市

美濃郡

鹿足郡

山口県



- 島根大学医学部附属病院
- 県立中央病院
- 出雲市立総合医療センター
- 出雲市民病院
- 出雲市民リハビリ病院
- 寿生病院
- 小林病院

- 松江赤十字病院
- 国立病院機構松江病院
- 松江市立病院
- 東部医療福祉センター
- 松江生協病院
- 松江生協リハビリ病院
- 松江記念病院
- 鹿島病院
- 玉造厚生年金病院
- こなんホスピタル

- 済生会江津総合病院
- 済生会高砂病院
- 西部医療福祉センター
- 山崎病院

- 安来市立病院
- 安来市医師会病院
- 日立記念病院
- 安来第一病院
- 吉岡病院

- 浜田医療センター
- 成人病予防センター
- 西川病院
- 島田病院
- 山根病院
- 沖田病院

- 指定機能病院
- がん診療連携拠点病院
- 周産期母子医療センター
- 災害拠点病院
- 救命救急センター
- 救急告示病院(救命救急センターを設く)
- 地域医療支援病院

- 益田医師会病院
- 益田赤十字病院
- 救慈生病院
- 津和野町
- 津和野共存病院
- 吉賀町
- 山口赤十字病院
- 六日市病院
- 済生会山口総合病院
- 岩国医療センター

- 大田市立病院
- 石東病院
- 大田市
- 江津市
- 川本町
- 美郷町
- 飯南町
- 飯南病院
- 平成記念病院
- 奥出雲病院
- 雲南総合病院
- 雲南市
- 奥出雲町
- 雲南総合病院
- 市立三次中央病院
- 安佐市民病院
- 広島市民病院

島根県の医療提供体制

島



療審計

療計画

康増進

規定に

」

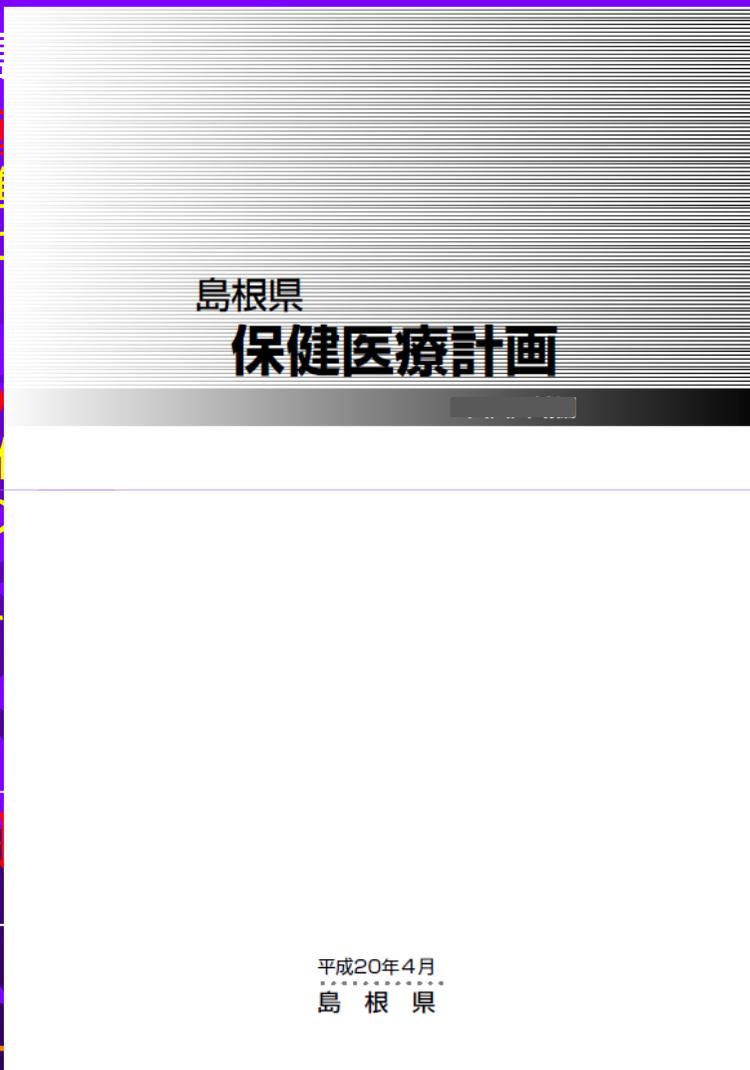
団体の

上に関

今後の

対して

巻



島根県の医療提供体制

医療法第30条の4の規定に基づく「医療計画」

第1節 住民・患者の立場に立った医療提供体制の構築

- (1) 医療連携体制の構築
- (2) 医療に関する情報提供の推進

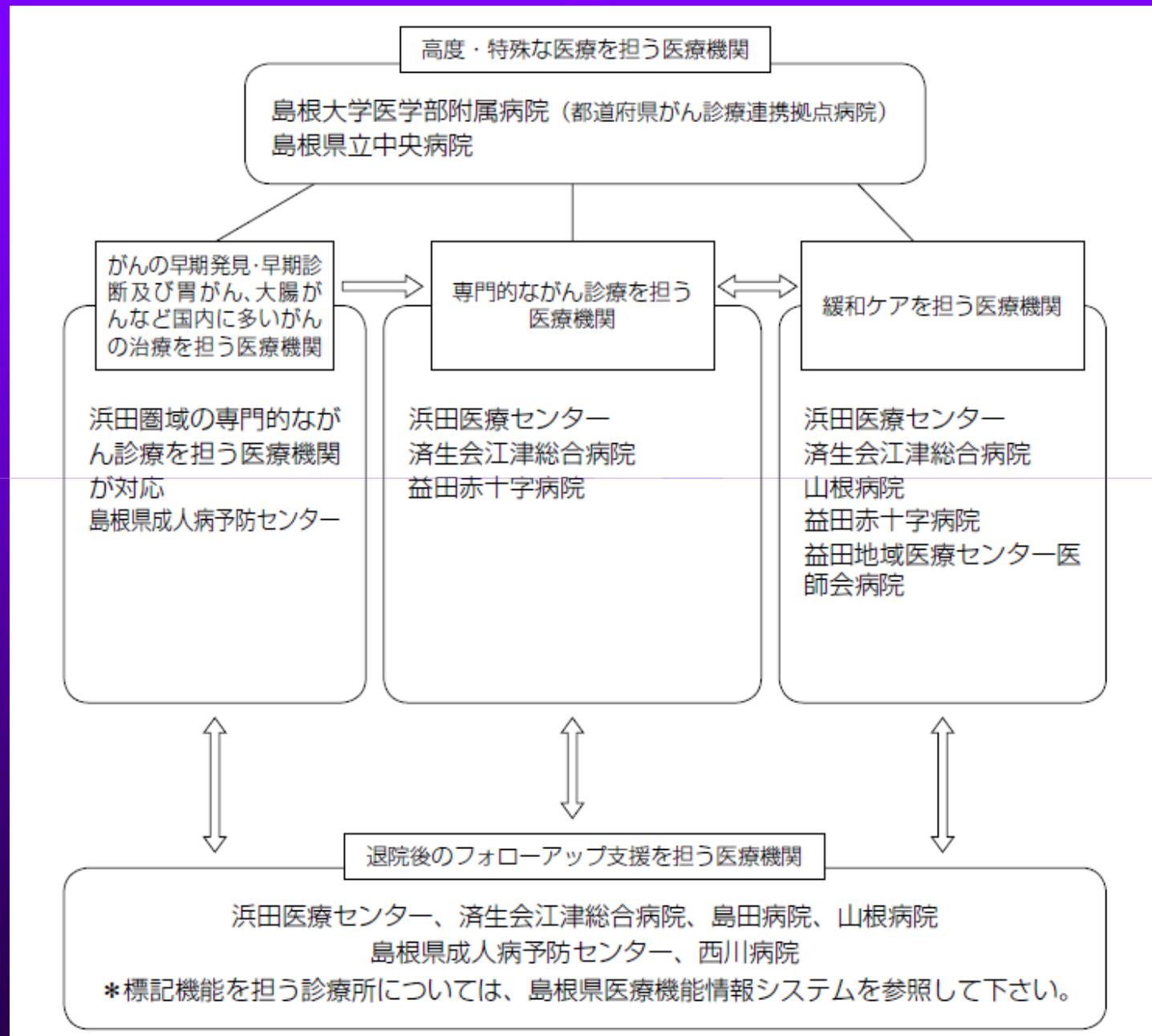
第2節 事業毎の医療連携体制の現状、課題及び施策の方向

- (1) がん対策
- (2) 脳卒中对策
- (3) 急性心筋梗塞対策
- (4) 糖尿病対策
- (5) 小児救急を含む小児医療
- (6) 周産期医療
- (7) 救急医療
- (8) 災害医療
- (9) 地域医療(医療従事者確保を含む)
- (10) 終末期医療を含む在宅医療

第3節 その他の医療提供体制の整備充実

- (1) 緩和ケア
- (2) 医療安全対策
- (3) 医薬分業
- (4) 医薬品等の安全性確保
- (5) 臓器等移植対策

がん医療1



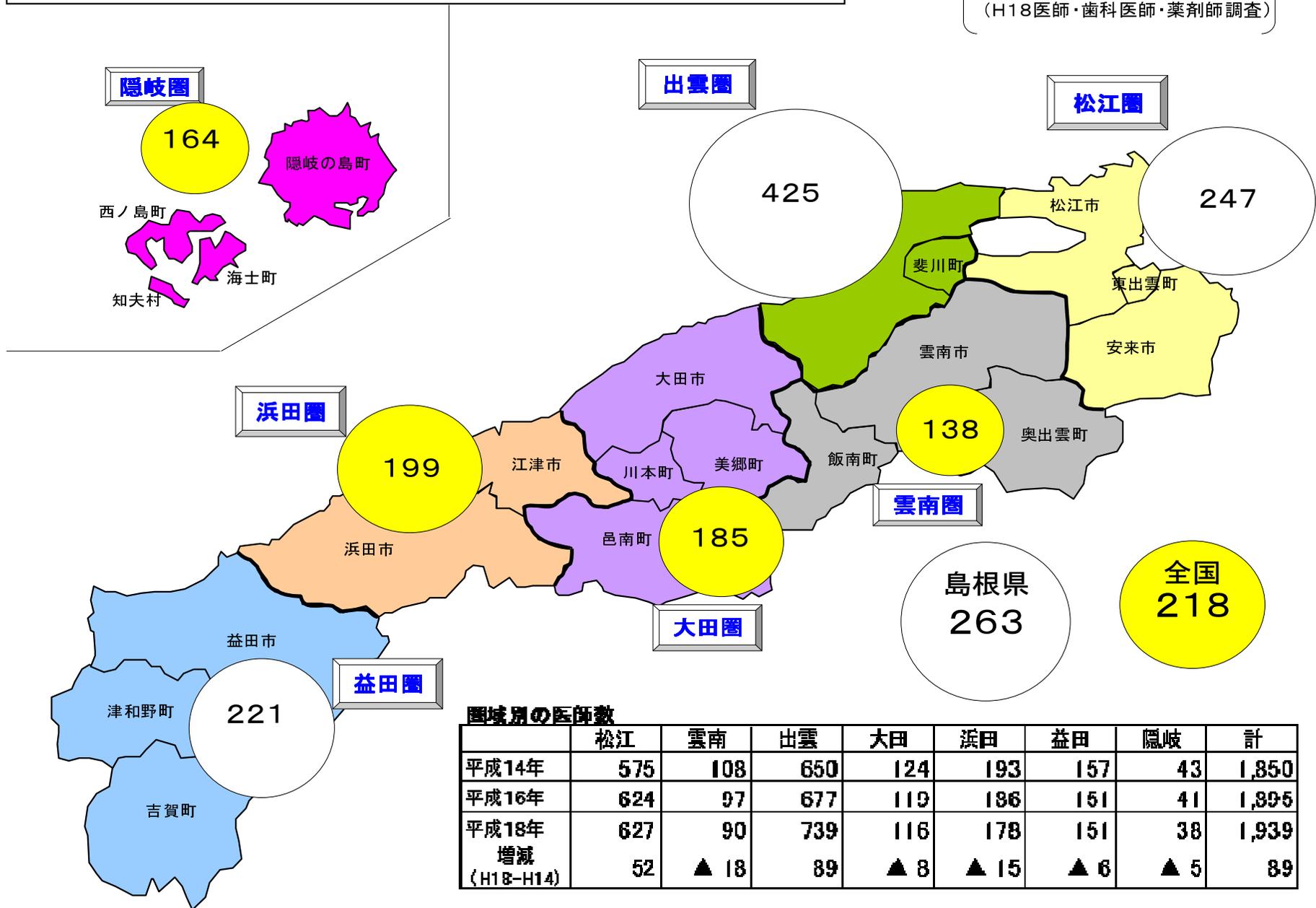
医療機能低下 ← 医師不足等

- 地域的な偏在
都市部に集中、いわゆるへき地にまぼら
- 診療科による偏在
不足しがちな診療科：産科、麻酔科、小児科
島根県では、精神科、外科、内科も

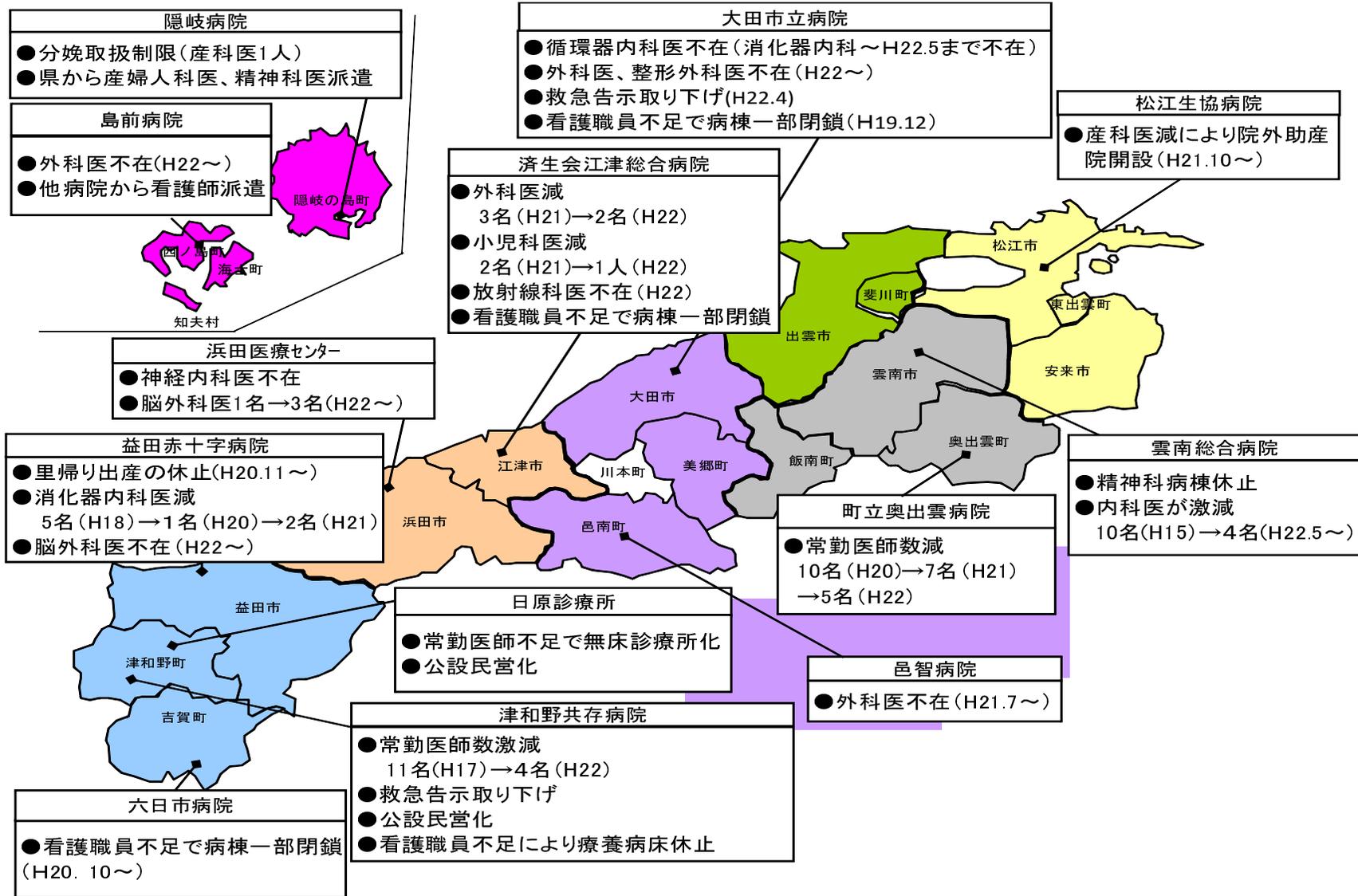
医師の偏在(人口10万対医師数)

— 2次医療圏別 —

医師数:平成18年12月31日現在
(H18医師・歯科医師・薬剤師調査)



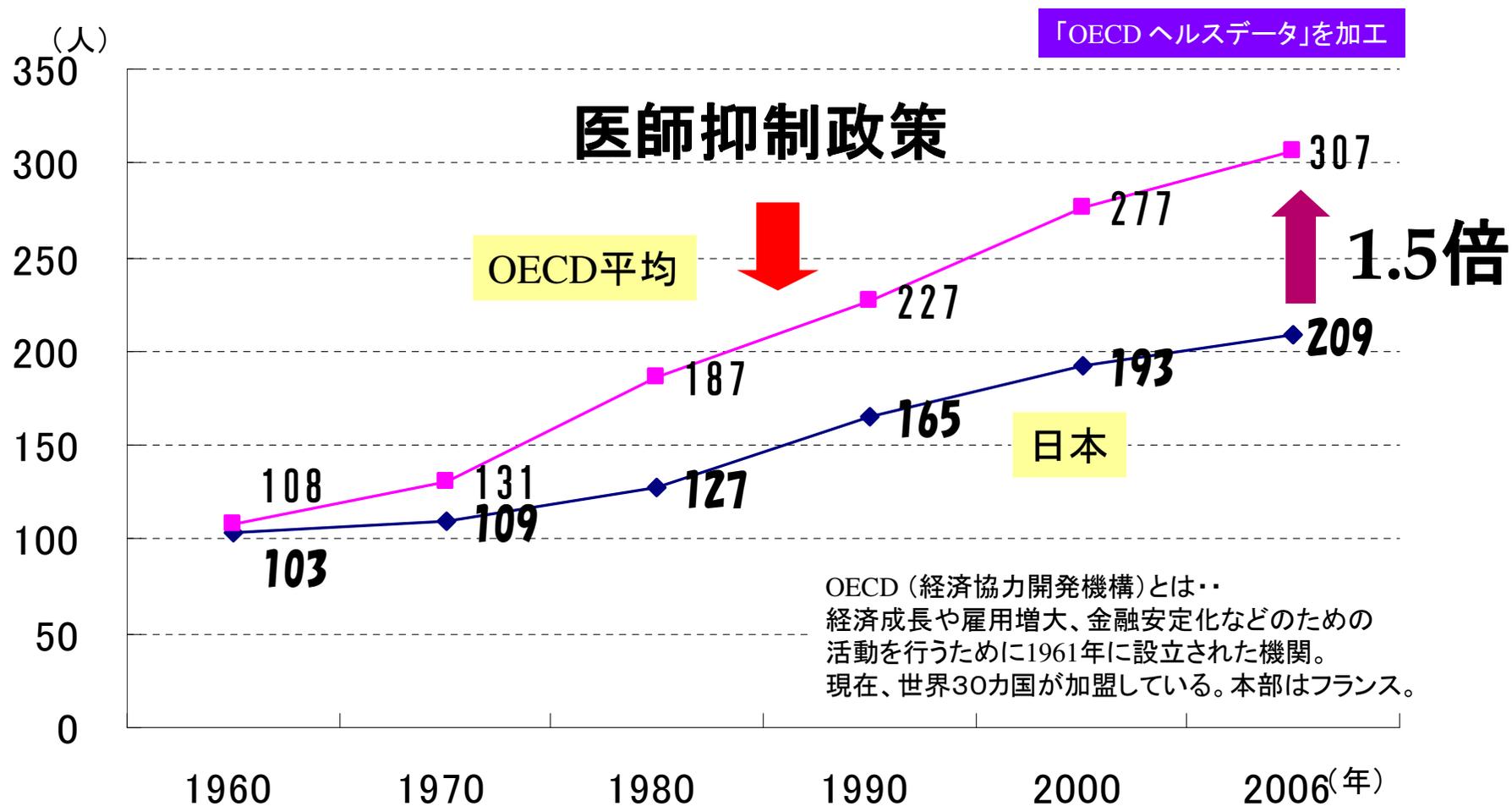
県内病院の医師不足状況(常勤医)



日本の医師数でも世界の中で多いか

医師数は世界(OECD)に比べ少なく、その差が拡大

OECD諸国の人口10万人対医師数推移



なぜ医師不足・偏在がおこるのか？

- 根本原因

医療供給

- ・医師
- ・医療

初期臨床研修制度の
導入が補完機能の崩壊の
引き金になった

医療を

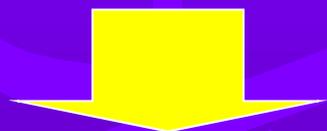
医療を提供

のが、

れない

従来の医師確保の取り組み

医療機関の院長が大学からの医師派遣を
要請



これからの医師確保の取り組み

- 公共財としての医療機関を守るために
- 医療機関と医療従事者を守り、育てる
- 医療機関(従事者を含む)、行政、患者、地域住民がともに汗を流す取り組み

医療機関と患者、地域とのコミュニケーションが重要

地域の医療を守り、充実していくために

課題

理想と
現実の
ギャップ

- 院長にできること
- 医師及び看護職にできること
- 医療機関としてできること
- 患者家族でできること
- 市や県でできること
- 地域全体が協力してできること
- 国レベルでできること(提案)

地域の医療を守り、充実していくために

院長にできること

図書館としてできること

地域全体が協力してできること

国レベルでできること(提案)

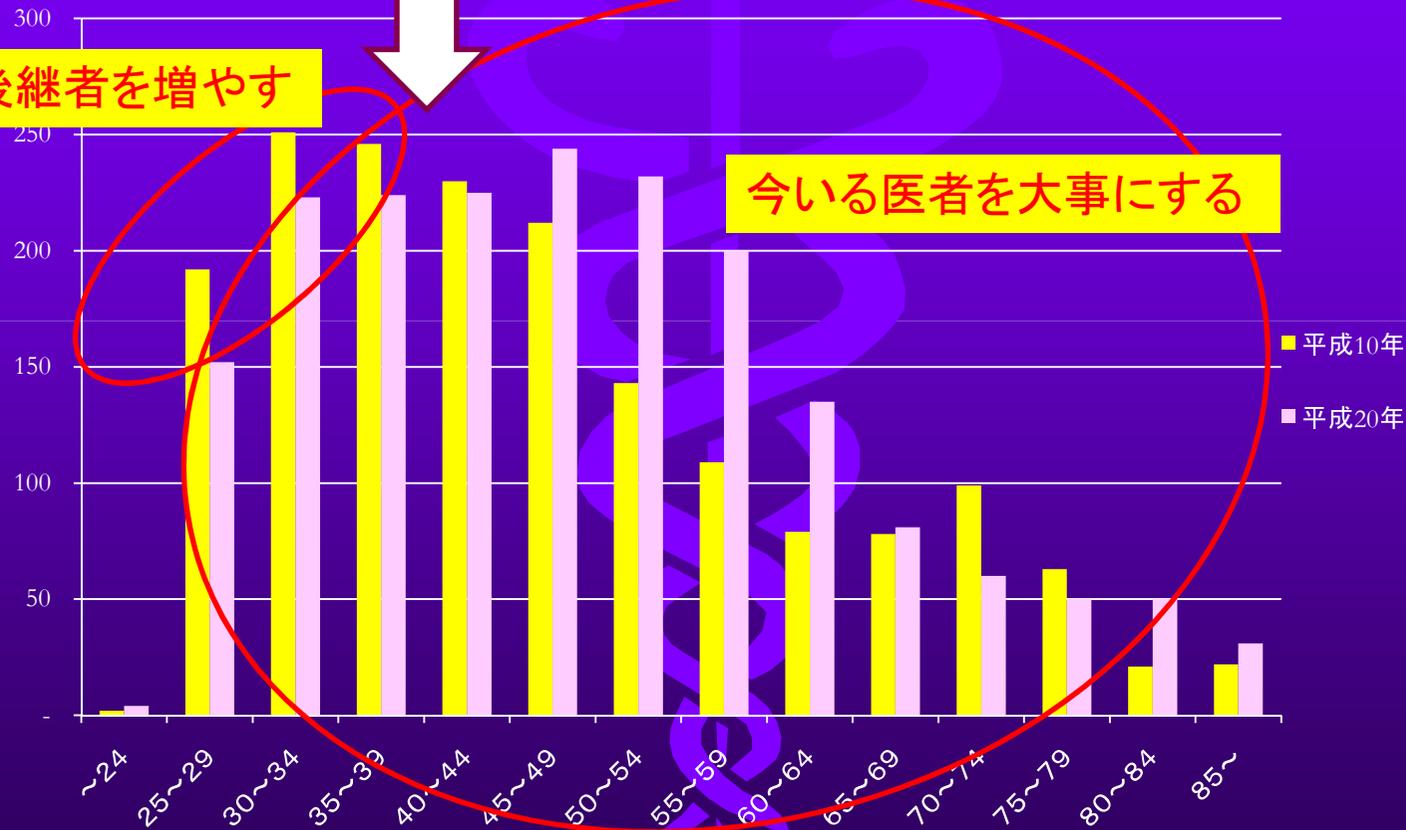
島根県の直近と10年前の医師の年齢

～医師・歯科医師・薬剤師調査より～

外から連れてくる(出身者、島大卒業生、その他)

後継者を増やす

今いる医者を大事にする

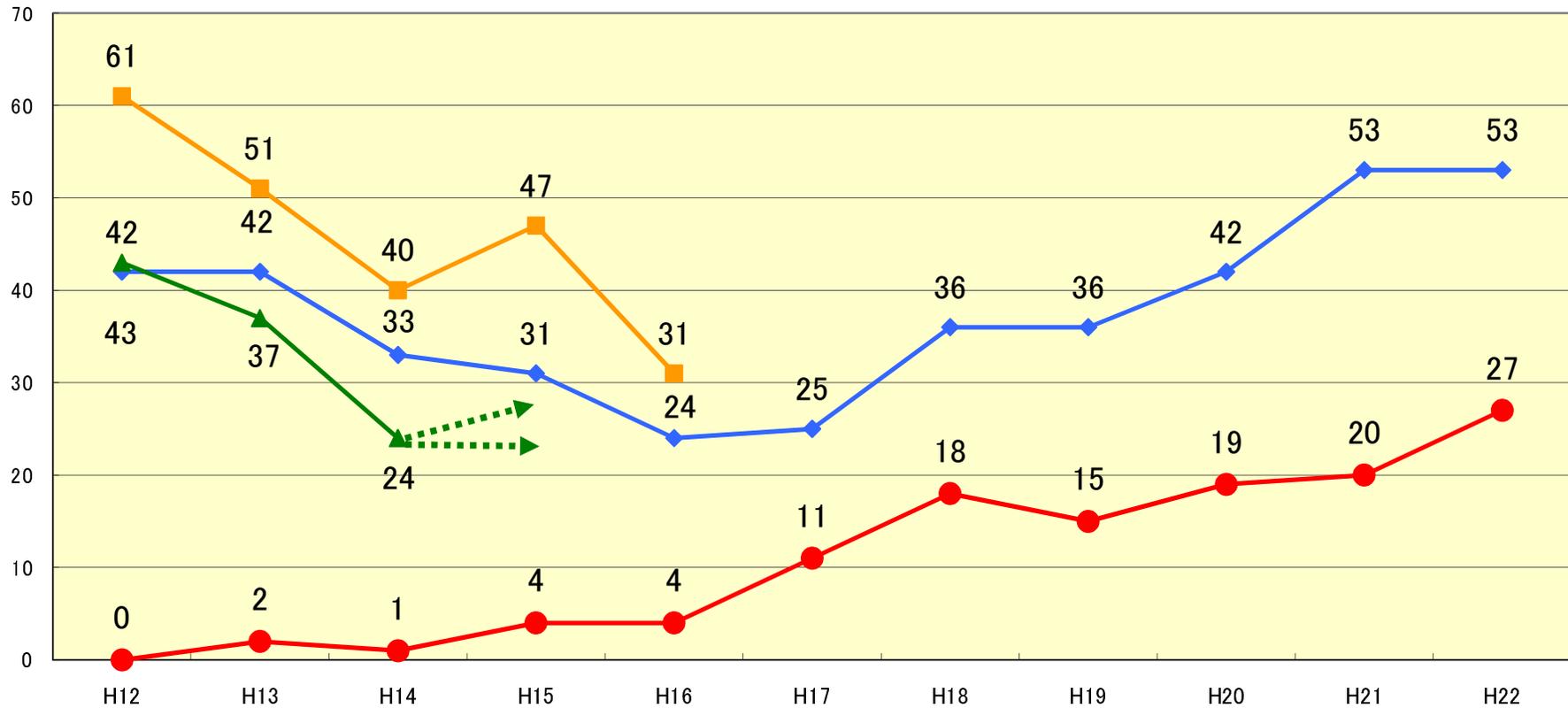


島根大学医学部の平成23年度入試（予定）



医学部進学者数、研修医数の状況

(人)



◆ 医学部進学者数
 ■ 初期臨床研修医数
 ▲ 後期臨床研修医数
 ● 奨学金貸与医学生
 → 医師予定数

地域医療支援学講座の役割

地域枠推薦入学、奨学金貸与 **等** 医学生・医師に対する支援

地域医療支援学講座

(対象)

○専門医志望者

○総合医志望者

【業務内容】

- ・地域医療の魅力を医学生に普及
(医学生への県内定着の働きかけ)
- ・地域医療に必要な総合医の養成
(研修のコーディネート)
- ・医師の希望と地域医療ニーズを調整
- ・勉強しやすい・働きやすい環境整備

研修
連携

県内
医療機関

連携

県 医師確保対策室

【業務内容】

- ・年限内自治医への支援
- ・他大学奨学金医師の支援
- ・赤ひげ医師のコーディネート

他大学出身
奨学金医師23名

義務年限内自治医
12~13名

再生にむけて～医師確保を中心に～

今ある医療関連資源を最大限利用して
もっとも効果的な医療提供体制の構築

1) 今いる医師を大事にする

* 過重負荷の軽減、職場改善、処遇改善、やりがい、キャリアアップ..

ex) 時間内にかかれる救急は時間内に、医療秘書の充実、院内での役割

学習及び研究支援

2) 大学を中心にしてキャリアアップできる診療 ネットワーク・連携体制の構築

～精神科、外科、麻酔科、総合診療科等

3) 県内に医師を残し、育てる

～地域枠推薦、緊急医師確保枠、奨学金、つながり強化等

4) 地域外から医師を連れてくる

～地元出身者、奥出雲病院勤務経験者.....

将来あるべきビ
ジョンを伝えて、そ
れを一緒に作ろう

最も即効性がある

具体的には

○市民を含む関係者が今おかれている状況を共通認識する

→勉強会、情報交換会等(特に医療従事者の状況を聞く)

→自分たちに何ができるかを明らかにする

○今いる医療従事者(特に医師)を大切にすること

☆医師等のモチベーションを高める(相談すること)

→現場の医師が何を求めているのか

→クレームだけでなく、よかったこともしっかり伝える

→働きやすい環境整備

→今いる医者の意見を聞いて、課題やいいところを整理して

、課題を解決に向けて努力する

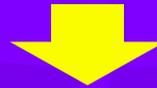
→解決すべき課題を一緒になって、その方策を考える

○今の病院の「うり」、地域医療の「うり」を考え、「うり」に磨きをかける

- 
- そのために仕組みをつくる(研究費、学会参加費、留学費等)
 - 市や市民と協力して、市ゆかりの医師等とつながり続けること
 - 民間医局等あらゆる方法を通じて医師に働きかける
 - 今の医療にかかる問題を政策的にとらえる

たとえば

学習及び研究支援として図書館ができますか？



○希望書籍やジャーナル等の購入

地域医療を支える医療従事者を支えるために
自院の図書館に何が求められていますか



○人が足りない

地域医療を支える医療従事者を支えるために
島根県医学図書館ネットワークに何が求められていますか

○できるために誰が何をするのか

たとえば

学習

?

医療機関の
医療従事者が
何を
求めているのか！